

より教員をふやすために

阿曾 圭佑（山形県立山形東高等学校2年）

1. 各活動に参加してみても

教職魅力創造プラットフォームは、少人数開催ゆえの発言機会の多さが魅力である。学生にとって、大学教授や現役の先生方と意見交換し、自分の意見を企画段階から言えるこの取り組みは、貴重であり、これからも続けるべきだ。会議の中で話題になった、聞き書き企画の話聞いて思ったのが、参加していただく教員と、そのエピソードやポリシーに共感したり興味を持ったりした生徒たち（聞き書きの当事者以外）が関われるような何かをほしい。ただ閲覧するだけでなく、そこから新たな「恩師」が生まれたら、この取り組みはより幅広い人を巻き込み、教職をより身近に感じられるある種のSNS のようになるのではないかと期待する。

学びのフォーラムでは、教職に関わる大人と、私達学生が一緒になって難問を考えた。私の学校では教員志望の人は少なく、「教育」というテーマでの議論をする機会が多くは取れなかった。この企画では、教育に携わる人たち、それに興味を持つ人達と質の高い議論ができた。また、取り扱う命題のレベルが極めて高く、というより答えがないため、どれだけ考えても足りない、という教育の難しさを体感した。教育活動の「核」となる「わかる」と「できる」の違いや、「考える」とは？という命題について解決の手がかりを見つけることができた。考えて終わりではなく、その後の自分にも変化をもたらす議論ができるこのフォーラムの意味は大きい。

2. 教員志望者を増やすために

上で述べたような企画というのは、当然であるが教員志望者向けに作られることが多い。教員志望というライン上にいる者たちと、教員・教職との距離を縮めるための活動なのだ。つまり、今確保しきれている志望者を減らさない活動だと感じる。しかし効果的に教員をふやすためには、今手元にある種を守るよりも、種の母数をふやすほうが良い。そのために、SNS の活用を推す。「大学やその関連機関のホームページ」と言われて見るのは少しハードルが高いように感じる。まして興味のある人でなければ、自分で調べてそこまで行き着くのが難しいのが現状である。「自分で調べないのが〜」と片付けてしまえばそれまでだが、教員の確保が急務な昨今の状況を鑑みて、こちら側からアプローチすることが必要だと思う。SNS、特にインスタグラムの、ホームページにはない強みとして、「友達がフォローしているアカウントがおすすめに挙がってくる」ということを述べたい。つまり、私やほかの活動の参加者ある程度の人数が、このプロジェクトのアカウントをフォローすると、この活動を知らない私の友達のアカウントにも、「教職魅力創造プロジェクト」のアカウント、つまりこの企画の存在を知らせることができる。先に述べたように、直接ホームページにたどり着くのは難しくとも、「依存」と言われるレベルまで我々の生活に入り込んでいるSNSを経由してなら、リンクを踏んで閲覧してくれる人も多いのではないだろうか。企画内容自体はとても面白い。あとは興味を持ってもらうだけだ。